

1. 基本情報

事務事業名	広尾町地籍図管理システム作成委託業務				事業開始年度	H27	実施計画 事業番号	4-3-②-1
担当課	建設水道課	担当係	土木係	担当者	前田 伸之			
事業の性質	☐ 法定受託事務 ☐ 義務的自治事務 ☒ 任意の自治事務				法定根拠			
実施方法(全てチェック)	☒ 町が直接実施 ☐ 委託又は指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他(							

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合 計画(基本計画)上 の位置づけ	基本目標	4 住みやすさが感じられるまちづくり
	政策	3 自然と共生した生活基盤をつくる
	施策	② 計画的で有効な土地利用の推進
	具体的な施策	
めざす目的成果	・地籍面積計算簿を電子化することにより、町民・関係業者からの問い合わせ、閲覧・交付作業に対するサービスの向上と大幅な時間短縮が図られ業務の円滑化を図ることが出来る。また、データ(紙)の劣化が著しく電子化することで永久に保存管理することが出来る。	
事業 内容	対象 (誰を、何を)	・町民、関係業者
	手段・手法	地籍図、面積計算簿の電子化(システム化)
	サービス内容	閲覧、交付作業の時間短縮

3. 実施結果「DO(実施)」

単位: 千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳
コスト	委託料		3,996		4,510		5,071	
	事業費合計		3,996		4,510		5,071	
人件費	常勤職員(延)	10 人日	314	10 人日	330	10 人日	316	
	会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0	
	人件費合計		314		330		316	
	総事業費		4,310		4,840		5,387	令和2年度財源内訳の積算
財源 内訳	国道支出金							
	地方債							
	その他特定財源							
	一般財源		4,310		4,840		5,387	
	財源合計		4,310		4,840		5,387	
R元年度 実施内容	野塚地区外 2,355筆の地籍図、面積計算簿の電子化							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績	R1実績	R2(目標)		目標年度 最終目標値	
			H30(目標)	R1(目標)				
地籍図、面積計算簿の電子化	地籍図、面積計算簿の筆数	筆	2227	2355	—		R2 年度	
			(2227)	(2355)	(2472)		(11476)	
					—		年度	
			()	()	()		()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし	指標の説明 ※指標の内容と設定理由	単位	H30実績	R1実績	R2(目標)		目標年度 最終目標値	
			H30(目標)	R1(目標)				
地籍図、面積計算簿の電子化	閲覧、交付作業に対するサービスの 向上と大幅な時間短縮を図ること が出来る。電子化により永久保 存	筆	2227	2355	—		R2 年度	
			(2227)	(2355)	(2472)		(11472)	
					—		年度	
			()	()	()		()	

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1次評価 (自己評価)	1. 妥当性の評価			
	20	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		
		☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)	説明	管理者として適正な管理が必要
		② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。		
		☒ 現手法が最適である(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)	説明	他社との関連性がない独自システムのため町内業者へ委託。現手法が最適である。
	2. 公平性の評価			
	20	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		
		☒ 全住民に対し公平である(10) ☐ 対象者に対し公平である(6) ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)	説明	すべての利用者に対して、公平性を欠くところはない。
		② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。		
		☐ 十分適切である(10) ☒ 受益者負担なし(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)	説明	町費による委託業務実施。
3. 有効性の評価				
16	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。			
	☒ とても有効である(10) ☐ 有効である(6) ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)	説明	閲覧、交付作業に対するサービスの向上 データー(紙)を電子化することで永久に保存管理することが出来る。	
	② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。			
	☐ 計画値以上である(10) ☒ 計画値通りである(6) ☐ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)	説明	計画値通りである。	
4. 効率性の評価				
12	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎではないか。			
	☐ 比較的低コストである(10) ☒ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)	説明	全道統一の労務単価により委託料を算定しているため、適正なコストである。	
	② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率は適正であるか。			
	☐ 効率性が高い(10) ☒ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☐ 非効率的である(0)	説明	適正である。	
5. 優先性の評価				
20	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。			
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)	説明	データー(紙)を電子化することで永久に保存管理することが出来るために必要である。	
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。			
	☒ 影響は大きい(10) ☐ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)	説明	地籍図閲覧などの利用者への交付作業の時間短縮、データ(紙)の品質劣化により数値等が判別できなくなってしまう。	

合計	88 ／100	事業実施の課題・方向性	昭和31年～昭和40年に作成された地籍図、面積計算簿のデーター化が完了(R2予定)するまでの継続が必要
----	------------	-------------	---

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2次評価 (政策プロ)	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間: 年度～ 年度) ☐ 廃止・完了(時期: 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)		
主管者会議評価	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間: 年度～ 年度) ☐ 廃止・完了(時期: 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☐ 拡大 ☒ 現状のまま ☐ 縮小
	総合コメント		

1. 基本情報

事務事業名	公園・緑地草刈清掃業務委託			事業開始年度		実施計画 事業番号	4-3-③-2
担当課	住民課	担当係	環境生活係	担当者	三浦 弘樹		
事業の性質	☐ 法定受託事務 ☐ 義務的自治事務 ☒ 任意の自治事務				法定根拠		
実施方法(全てチェック)	☐ 町が直接実施 ☒ 委託又は指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他(						

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合 計画(基本計画)上 の位置づけ	基本目標	4 住みやすさが感じられるまちづくり
	政策	3 自然と共生した生活基盤をつくる
	施策	③ 利用しやすい公園・緑地の整備
	具体的な施策	1 公園・緑地の維持管理の推進
めざす目的成果	公園・緑地の適正な維持管理を推進し、地域コミュニティの場としての使用環境の向上を図る。	
事業 内容	対象 (誰を、何を)	公園・緑地・墓地
	手段・手法	草刈、枝剪定、ごみ処理等清掃管理
	サービス内容	公園・緑地等の使用環境の向上

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳	
コスト	事業費	委託料	18,004		18,401		18,685		委託料 18,685千円
		事業費合計	18,004		18,401		18,685		
	人件費	常勤職員(延)	5 人日	157	5 人日	165	5 人日	158	令和2年度財源内訳の積算
		会計年度任用職員(延)	時間	0	時間	0	時間	0	
		人件費合計	157		165		158		
		総事業費	18,161		18,566		18,843		
	財源内訳	国道支出金							
地方債									
その他特定財源									
一般財源		18,161		18,566		18,843			
財源合計		18,161		18,566		18,843			
R元年度 実施内容		公園・緑地・墓地墓地等の草刈・清掃等 管理面積 270,016㎡							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	 R2(目標)	目標年度 最終目標値	
草刈り及び管理等面積		緑地等の適正な維持管理		㎡	264,862 (264,862)	270,016 (270,016)	— (270,016)	R 2 年度 (270,016)	
					 ()	 ()	— ()	年度 ()	
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	 R2(目標)	目標年度 最終目標値	
					 ()	 ()	— ()	年度 ()	
					 ()	 ()	— ()	年度 ()	

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1次評価 (自己評価)	1. 妥当性の評価			
	16	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		説明
		☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)		
		② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。		
		☐ 現手法が最適である(10) ☒ 検討の余地がある(6) ☐ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)		
	2. 公平性の評価			
	20	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		説明
		☒ 全住民に対し公平である(10) ☐ 対象者に対し公平である(6) ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)		
		② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。		
		☒ 十分適切である(10) ☐ 受益者負担なし(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)		
3. 有効性の評価				
16	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。		説明	
	☒ とても有効である(10) ☐ 有効である(6) ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)			
	② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。			
	☐ 計画値以上である(10) ☒ 計画値通りである(6) ☐ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)			
4. 効率性の評価				
16	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎていないか。		説明	
	☒ 比較的低コストである(10) ☐ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)			
	② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率は適正であるか。			
	☐ 効率性が高い(10) ☒ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☐ 非効率的である(0)			
5. 優先性の評価				
20	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。		説明	
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)			
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。			
	☒ 影響は大きい(10) ☐ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)			

合計	88 /100	事業実施の課題・方向性	今後も引き続き実施
----	------------	-------------	-----------

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2次評価 (政策プロ)	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間: 年度～ 年度) ☐ 廃止・完了(時期: 年度)
	投入資源 の方向性	事業量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針 (改善点・変更点)		
主管者会議 評価	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間: 年度～ 年度) ☐ 廃止・完了(時期: 年度)
	投入資源 の方向性	事業量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
	総合コメント		

1. 基本情報

事務事業名	公園施設長寿命化事業			事業開始年度	H26	実施計画 事業番号	4-3-③-3
担当課	建設水道課	担当係	土木係	担当者	前田 伸之		
事業の性質	☐ 法定受託事務 ☐ 義務的自治事務 ☒ 任意の自治事務				法定根拠		
実施方法(全てチェック)	☒ 町が直接実施 ☐ 委託又は指定管理 ☐ 補助金・負担金 ☐ その他(						

2. 事業概要「PLAN(計画)」

まちづくり推進総合 計画(基本計画)上 の位置づけ	基本目標	4 住みやすさが感じられるまちづくり
	政策	2 便利で快適な生活環境をつくる
	施策	③ 利用しやすい公園・緑地の整備
	具体的な施策	2 都市公園の整備
めざす目的成果		・劣化している都市公園内の遊具、木橋及び木道を補修し来訪者の安全確保を図る。
事業 内容	対象 (誰を、何を)	・町民、公園利用者
	手段・手法	修繕
	サービス内容	スポーツやイベント、憩いの場として、安心して利用できる地域コミュニティの場を提供

3. 実施結果「DO(実施)」

単位:千円		平成30年度(決算)		令和元年度(決算)		令和2年度(予算)		令和2年度事業費の内訳	
コスト	事業費	工事請負費		1,188		985		1,012	
		事業費合計		1,188		985		1,012	
	人件費	常勤職員(延)		10 人日	314	10 人日	330	10 人日	316
		会計年度任用職員(延)		時間	0	時間	0	時間	0
		人件費合計		314		330		316	
		総事業費		1,502		1,315		1,328	
	財源内訳	国道支出金							
地方債									
その他特定財源									
一般財源		1,502		1,315		1,328			
財源合計		1,502		1,315		1,328			
R元年度 実施内容		新丸山公園(木橋・丸太階段・コンビネーション遊具・四阿屋根・園路)の改修							
活動指標 ※何をどのくらいやったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値
都市公園の遊具数		劣化した遊具数		箇所	5 (5)	3 (3)	— (3)		R2 年度 ()
					()	()	— ()		年度 ()
成果指標 ※どのような効果があったかを 把握するためのものさし		指標の説明 ※指標の内容と設定理由		単位	H30実績 H30(目標)	R1実績 R1(目標)	R2(目標)		目標年度 最終目標値
遊具施設等の管理の充実		劣化した遊具を補修することにより、来訪者の安全を図る		箇所	5 (5)	3 (3)	— (3)		R2 年度 ()
					()	()	— ()		年度 ()

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1次評価 (自己評価)	1. 妥当性の評価			
	20	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		
		☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)	説明	管理者として適正な維持管理が必要
		② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。		
		☒ 現手法が最適である(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)	説明	専門業者による修繕実施。現手法が最適である。
	2. 公平性の評価			
	20	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		
		☒ 全住民に対し公平である(10) ☐ 対象者に対し公平である(6) ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)	説明	すべての公園利用者に対して、公平性を欠くところはない。
		② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。		
		☐ 十分適切である(10) ☒ 受益者負担なし(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)	説明	町費による工事実施。
3. 有効性の評価				
16	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。			
	☒ とても有効である(10) ☐ 有効である(6) ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)	説明	来訪者の安全を図ることが出来る	
	② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。			
	☐ 計画値以上である(10) ☒ 計画値通りである(6) ☐ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)	説明	計画値通りである	
4. 効率性の評価				
12	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎていないか。			
	☐ 比較的低コストである(10) ☒ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)	説明	全道統一の労務単価により工事価格を算定しているため、適正なコストである。	
	② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率は適正であるか。			
	☐ 効率性が高い(10) ☒ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☐ 非効率的である(0)	説明	適正である。	
5. 優先性の評価				
20	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。			
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)	説明	劣化・損傷のある遊具施設等の補修は、公園利用者(特に子供)が安心して遊ぶために必要である。	
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。			
	☒ 影響は大きい(10) ☐ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)	説明	劣化・損傷のある遊具施設等の補修を実施しなければ、重大事故やケガを招く恐れがあり公園利用者に影響がある。	

合計	88 /100	事業実施の課題・方向性	劣化箇所を把握し、適正な維持管理を実施する。
----	------------	-------------	------------------------

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2次評価 (政策プロ)	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間: 年度～ 年度) ☐ 廃止・完了(時期: 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針(改善点・変更点)		
主管者会議評価	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間: 年度～ 年度) ☐ 廃止・完了(時期: 年度)
	投入資源の方向性	事業量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
	総合コメント		

4. 事業の分析「CHECK(評価)」

1次評価 (自己評価)	1. 妥当性の評価				
	20	① 国、北海道、民間及び地域との役割分担から、広尾町が行う必要があるか。		説明	国や北海道が実施すべき事業ではなく、各自治体が各々の裁量で実施すべきものである。
		☒ 法律では義務付けられていないが、町で行うべき事業(10) ☐ 法律で義務付けられている(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 課題もあり検討すべき(4) ☐ 必要性がない(0)			
		② 事業の目的のため、現在の手段・方法に改善の余地があるか。			
		☒ 現手法が最適である(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ 一部改善すべき(4) ☐ 全面的に見直すべき(0)			
	2. 公平性の評価				
	20	① 事業の目的に照らし、受益者が特定個人・団体に偏っていないか。		説明	町民のみならず、来場者に対し公園を開放している。
		☒ 全住民に対し公平である(10) ☐ 対象者に対し公平である(6) ☐ 見方により偏りがある(4) ☐ 実態として偏りがある(0)			
		② 受益者の費用負担は、コストに対し適切な金額となっているか。			
		☒ 十分適切である(10) ☐ 受益者負担なし(10) ☐ 検討の余地がある(6) ☐ やや不適切である(4) ☐ 受益者負担を検討すべき(2) ☐ 不適切である(0)			
1次評価 (自己評価)	3. 有効性の評価				
	10	① 政策及び施策の実現や住民満足向上のため、有効な事業であるか。		説明	観光地として公園整備を進めることは、住民の満足度向上及び再度の誘客につながる。
		☐ とても有効である(10) ☒ 有効である(6) ☐ やや有効性に欠ける(4) ☐ 有効性に疑問がある(0)			
		② 当該年度の目標に対し、達成度合いは計画通りであるか。			
		☐ 計画値以上である(10) ☐ 計画値通りである(6) ☒ 計画値以下である(4) ☐ 計画値達成が困難である(0)			
	4. 効率性の評価				
	12	① 他市町村及び類似事業に対し、コストがかかりすぎているか。		説明	公園管理委託業務は入札により業者を選定していることや、花壇管理は専門業者に委託していることから適正なコストと判断する。
		☐ 比較的低コストである(10) ☒ 適正なコストである(6) ☐ ややコスト高である(4) ☐ 極めてコスト高である(0)			
		② 予算及び人員と成果の関係で、単位当たりの効率は適正であるか。			
		☐ 効率性が高い(10) ☒ 適正である(6) ☐ 改善の必要がある(4) ☐ 非効率である(0)			
5. 優先性の評価					
20	① 社会環境変化等の行政需要に照らし、次年度も実施すべきか。		説明	公園施設は継続して整備する必要があるため、必ず実施すべき。	
	☒ 必ず実施(10) ☐ できれば実施(6) ☐ 見直して実施(4) ☐ 事業見合わせ(2) ☐ 終了・廃止すべき(0)				
	② 事業を廃止又は延伸した場合、何らかの影響が予測され、その程度はどうか。				
	☒ 影響は大きい(10) ☐ 影響はある(6) ☐ 影響は少ない(4) ☐ 影響はない(0)				

合計	82 ／100	事業実施の課題・方向性	サンタランドのまちとしてまちづくりを進めているため、施設修繕含めた整備は必要である。
----	------------	-------------	--

5. 今後の方向性「ACTION(改善)」

2次評価 (政策プロ)	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間: 年度～ 年度) ☐ 廃止・完了(時期: 年度)
	投入資源 の方向性	事業量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
	今後の取組方針 (改善点・変更点)		
主管者会議 評価	事業の方向性		☐ 拡大 ☒ 継続 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 休止(期間: 年度～ 年度) ☐ 廃止・完了(時期: 年度)
	投入資源 の方向性	事業量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
		労働量	☒ 現状のまま ☐ 縮小
	総合コメント		